

## 宮城・竹ノ内遺跡

たけのうち



(仙台・塩竈)

- 1 所在地 宮城県仙台市宮城野区蒲生字竹ノ内
- 2 調査期間 一〇〇三年（平15）八月～一〇月
- 3 発掘機関 宮城県教育委員会
- 4 調査担当者 村田晃一
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 平安時代、江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

竹ノ内遺跡は仙台平野の北東部にあり、標高1mの浜堤に立地する。遺跡の南〇・七kmを七北田川が東へ流れ、約一kmで河口に至る。

遺跡は東西に細長く、規模

は最も広い部分で南北八

〇m東西一九〇mあり、面積は約一一六〇〇m<sup>2</sup>ある。

発掘調査の結果、平安時

代の溝一条と江戸時代の屋敷、及びそれより新しい暗渠配水施設を伴う池などを検出した。このうち、近世

より新しい遺構は確認にとどめたため、具体的な内容は不明である。屋敷は幅三mの溝で方形に区画されており、溝は二時期の変遷が認められた。新しい屋敷の規模は、東西五〇m南北三五mと考えられ、古い屋敷の規模も同程度とみられる。溝からは、多くの陶磁器類とともに木製品や金属製品が出土している。木簡は、古い屋敷の南辺を画する溝から出土した。

池は、南北五m東西七mの歪んだ橢円形をしている。暗渠は、池の西端に取り付いており、西へ一m延びたのち、南へ折れる。掘形は幅が二〇cmあり、その内部に節を抜いた径一〇cmの竹筒が埋め込まれていた。掘形が直角に折れる部分は、内部をL字形に削り抜かれた木製の箱を据え、その穴に竹筒を差し込んで連結していた。池は、遺跡内にあつたとされる冷徳寺に関わる遺構とみられる。なお、周辺の表土から、河原石を利用した墓石が一点出土した。

- 8 木簡の釦文・内容
  - (1) 「此かし」  
右者 藤宝永 [七年カ]  
」

306×(158)×41 081

直径一〇cm長さ二〇cmほどの丸太の外縁付近を縦に割って用いている。割面は平坦に削られ、そこに文字が記されている。裏面は樹皮を剥いだだけである。



文書には、場所を示す語句がみられ、末尾に年号が記されている。宝永七年は一七一〇年にあたる。木簡の形状や屋敷の区画溝から出土したことを考えると、野外で使われた土地などに関する表示かと思われる。

(1~7 村田晃一、8 吉野 武)

### 宮城・市川橋遺跡

いちかわばし

所在地 宮城県多賀城市市川字鴻ノ池

調査期間 第三七次調査 二〇〇三年(平15)六月~七月

発掘機関 多賀城市埋蔵文化財調査センター

調査担当者 武田健市

遺跡の種類 地方都市跡

6 遺跡の年代 奈良時代、平安時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

市川橋遺跡は、特別史跡多賀城跡の西面から南面一帯にかけて広がる遺跡である。第三七次調査は、多賀城跡南面に位置する城南地区の個人住宅建築に伴つて

実施したものであり、城外の幹線道路である南北大路とそれを分断する古代の河

川跡付近に位置している。

発見した遺構には、南北大路の河川SX三〇七〇と東西方向の河川SX三〇六一がある。南北大路は幅二四m段階の

